

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 東員町	対談項目1 障がい者の働く場の確保について	(1)障がい者の働く場とは	就労する障がい者が、仕事を通じて自分の成長や可能性を実感できる場所づくりが必要。 ・仕事のできる環境作りは企業側が行う。 ・仕事のしつけはきちんとする。	福祉としてではなく、本当に良い物だから売れるというような、障がい者がやりがいをもって働ける場所を作っていきたい。
		(2)障がい者雇用の現状と社会的必要性	全国には約800万人の障がい者がいるが、うち約200万人については就労可能である。しかし、実際に雇用されているのは18万人のみである。	平成25年5月に県内14000社にアンケートを行った結果、75%の企業は「社内に障がい者の方の適当な仕事がない」と回答しているが、果たして本当にそうなのかと思っている。
		(3)障がい者雇用に阻害するもの	障がい者でもできる仕事をしてもらおうと考えられた福祉施策が、かえって障がい者の「壁」となっていることに気づいていない。東員町では障がい者が本当の意味で働ける場所を作っていきたい。	特別支援学校の生徒の保護者から、何もできないと思っていた子どもが、こんなにもできるのかとびっくりしたという話を聞いたことがある。こうした「壁」をなくすよう県も努力し続けていく必要がある。
		(4)障がい者雇用を進める戦略	障がい者の働ける場所づくり：耕作放棄地を整備し、企業進出を促し、障がい者と地元の高齢者を農業の担い手として雇用してもらおう。障がい者と地元の高齢者との協働作業により収穫された生産物については、その企業に買い上げてもらう。	県では「(仮)障がい者雇用推進協議会」を設置し(東員町にも委員として参画いただく予定)、ステップアップカフェの取り組みを進める中で、障がい者雇用の理解を深めるなど、これからも県としてできることをやっていきたいと考えている。
		(5)モデル自治体となるために	ぜひ、先進事例を実際に見に行ってみてほしい。	多くの気づきをいただいた。今後とも協力してやっていきたい。